

木原武一著「天才の勉強術」新潮社 1994年6月1日刊を読む

## 天才の学び方(1) モーツァルト



- ・真似をしながら手本を越えている
- ・モーツァルトが利用する「手本」は「跳躍台」。モーツァルトはこれを使っていっそう高く、いっそう遠くへ飛ぶ(アインシュタイン)
- ・モーツァルトは、どんな跳躍台からも遠くへ飛ぶことができた。他人の音楽を模倣しながらはるかにそれを越えてモーツァルト独特の音楽をつくり上げてしまう能力
- ・ものを学ぶとは、まねぶこと。まねぶとは真似をすること。ものを学ぶとは、真似をすること。真似るとは「真」に似ること。「真」とは先生、手本。しかし、生徒が先生を越えることもある。手本よりもすばらしいものをつくることもある。「出藍之誉」である。
- ・模倣する能力と創造する能力は限りなく近い
- ・ことばを覚える上で、もっとも大切なのは真似をする能力なのである。ほとんどすべての人がことばを覚えることからわかるように、真似をする能力こそ人間に備わったもっとも基本的な能力
- ・何事につけ、無からの創造は不可能である。豊富な知識こそ、創造の源泉である。様々な音楽に接して豊かな音楽の泉を蓄えたモーツァルトは、ほんのちょっとした楽想の断片から素晴らしい旋律をつくり出すことができた。
- ・あらゆる本は引用であり、すべての人間は先祖からの引用であって、クモのように自分自身の腹の中から糸を手繰りだして巣をつくったりするような独創性を求めるとしたなら、ひとりとして独創的天才などいなくなる。もっとも偉大な天才は、他人のお陰をもっとも受けている人間である。(エマソン)

### Flute Concerto D dur (K.314)

1st movement Cadenza

W. A. Mozart  
(written by gon)



### <コメント>

「モーツァルト」「ニュートン」「ゲーテ」「ナポレオン」と、天才といわれる人々の勉強の仕方は参考になります。「深く狭く」と「広く浅く」のバランスこそが肝と考えます。

2021年7月9日林明夫記